

## 平成26年度 明石市地域自立支援協議会

## くらし部会 リポート Vol. 3 平成27年3月

発行元：明石市地域自立支援協議会 くらし部会事務局  
 (基幹相談支援センター) TEL：078-918-5252

【意見投稿用アドレス】 [akashi\\_jiritsushien@yahoo.co.jp](mailto:akashi_jiritsushien@yahoo.co.jp)

会員専用のメールアドレスをご用意していますので、皆様からの情報提供やご意見をお待ちしています。



## H26年度相談支援連絡会活動報告 「身近に相談できることの大切さ」

みなさま、こんにちは。くらし部会のワーキンググループ②「相談支援連絡会」を担当している、相談支援事業所オアシスの鳥居です。

障害のある方やその家族が、地域の中で様々な福祉サービスを利用しながら、その人らしい暮らしを作り出していこうとすると、どんなサポートがあればよいと思われませんか。

目的地が書いてある地図？道順を示した標識？相談支援の仕事をしていると、これらの道具が欲しい！という声をよくお聞きしますが、これらは目的を達成するための一方通行な手段でしかないんだなということを感じます。相談者自身が、「将来、何がしたいのか？」「どうすれば困っている状態から抜けられるのか？」という事を考え、少しずつ気づき変わっていく過程の中で、一緒に思いを修正してくれる人。双方向に思いをキャッチボールしてくれる人。そんな人が身近にいることの方がその人にとってどんなに大切な。

計画を立てる、制度やサービスの調整だけ行う事が相談員の仕事ではありません。困った時、確かめたいことがある時、情報が欲しい時に気軽に相談支援を利用していただけるようにするにはどうすればいいか？「気軽に相談してください」と言うけれど、今まで全く話をしたこともない人に子供の障害の事や兄弟の事、仕事やお金の事で悩んでいる自分の想いを整理して伝えることは容易ではないはず。

当ワーキングでは、「相談員として具体的にどんなスキルが求められているか？困りごとを解決するためにはどんな社会資源を知っていないといけないのか？地域の中で身近な存在となるにはどうすればいいか？」というような大きなテーマから、「平成27年3月で経過措置が終了し、4月から待たなしでスタートする計画相談の立て方」まで幅広いニーズを拾ってきました。市内の相談支援事業所は、来年度も計画相談に追われることとなりますが、疲弊しやすい環境に置かれている相談員がやるべきことをしっかりと確認できる機会として、当ワーキングを運営していきたいと思っています。



計画相談が各利用者、各家庭にうまく行き届いている市町村の仕組みや工夫を探しに視察に行きました。

「視察報告」を行い、各相談員へ先進地の取り組みを伝達しています。



①計画相談が行き届かない利用者を出さないためには、どんな仕組みが必要か？

②利用者の生活設計の見直しをどうしていけばいいのか？

ということについて話し合いました。